

Great Camping Experience

県定形訓練 野営法研究会 (Step2) スタッフハンドブック

Ver.2013.10



ボーイスカウト茨城県連盟
トレーニングチーム

I. 野営法研究会 Step2 の実施について

1. 野営法研究会 Step2 の目的・目標

野営法研究会 Step2 は、日本ボーイスカウト茨城県連盟が企画・開設し、BS.VS 隊長の必修研修と位置づけ、就任 1 年以内にこのコースを受講することを基本とします。ここでは、ボーイスカウト運動の基本の一つである「野営」について、実体験により「ボーイスカウトにおけるキャンプの意義を理解し、自らスカウトキャンプが快適に実践でき、かつスカウトにスカウトキャンプを指導できる」「野営基準を理解する」ことを目的に実施されます。また、コース目標（達成目標）は、右上の枠内の通りです。

- ・ 3 泊以上の中・長期スカウトキャンプが快適にできる。
- ・ BS スカウトにスカウトキャンプが指導できる。
- ・ 副長等にスカウトキャンプの意義と方法が伝えられる。
- ・ 創意工夫により楽しいキャンプが創造・展開できる。

2. 野営法研究会 Step2 の実施方法

- 具体的な方法としては、2 泊 3 日の隊キャンプ（標準的ボーイ隊を想定）を実施します。隊キャンプについては、参加者をボーイスカウトに見立てて 6 ～ 8 人からなる標準「班」を複数設け、班長としてスタッフを送り込みます。他のスタッフは、隊長、副長、隊付という、実際にボーイ隊にある役務を担当します。
- この Step2 の隊キャンプは、熟練した指導者による理想的なキャンプである必要があります。参加者は、おそらく今まで知ることのなかった「本来のスカウトキャンプ」をここで初めて体験することとなります。それは、WB 研修所でも展開していないため、原隊においても「標準隊」における隊運営の経験がない（知らない）指導者がほとんどであるという現状の中で、何らかの形で、この「標準隊」の活動を経験してもらうことが、ボーイ隊の適正な運営上必要であるとの判断からです。それが体験できる唯一の機会が、この野営法研究会 Step2 になろうと思います。
- そこで、スタッフには、「標準隊における『高度な』ボーイ隊のキャンプ」を具体的に運営してもらいます。これは、ただの隊キャンプではなく、「高度な隊キャンプ」です。これは、標準班で構成される「高度な」野営技能とプログラムによるキャンプであって、「標準的なキャンプ」ではありません。そのため、野営法研究会 Step2 のスタッフは、ボーイ隊の運営について深く研究し、かつボーイ隊の隊キャンプ運営、隊キャンププログラム、スカウトゲーム、ソングなど、ボーイ隊を運営するための多種多様なスキルを高いレベルで身に付けていることが求められます。
- 参加者はというと、スカウトという立場で、実際にキャンプを楽しむことを第一とします。すなわちボーイスカウトとしての立場でキャンプを過ごしてもらいます。その一方で、成人指導者としての視点で、ボーイ隊の標準隊での指導者や班長の任務がどう遂行されるかを知り、班員はどう「班」を樹立していけばいいのか……を考え、それを即実行に移して、班を作り上げることを実体験します。
- 同時に、キャンプに必要な知識・技能については、その根拠（「なぜそうなるの?」「どうしてそうするの?」）を探っていくことをこのボーイの隊キャンプの全課程（期間）で研究することを求めています。
- 試行コースで実施したベンチャー隊を想定 1 泊 2 日の移動キャンプは行いません。ベンチャー隊への対応については、2 日目の午前中にパイオニアリングを入れています。ここで、準章課目 (2) スカウト技能「イ 筏、軽架橋、信号棟などの大型構築物を 1 つ作成する」の体験ができます。また、準章課目 (2) スカウト技能「ア 2 泊 3 日以上での探検旅行」への対応としては、ボーイ隊キャンプをきちんと指導・運営できるレベルの指導者を育成し、その指導者を以て「探検旅行」を指導する……とします。「探検旅行」の具体的な内容の指導については、定型外訓練、ラウンドテーブル等での研究とします。

3. 野営法研究会 Step2 の開設

野営法研究会 Step2 は、茨城県連盟の事業計画に従い、県指導者養成委員会が開設します。実際の運営は、県連の年間指導者養成計画に従い地区の担当の指導者養成委員会が行います。

4. 野営法研究会 Step2 の主任講師

主任講師は、県連指導者養成委員長・県連盟コミッショナー・県連トレーニングチームディレクターの 3 者が協議して、県連盟トレーニングチーム員の有資格者の中から選任します。

5. スタッフの編成と役割分担

① 研修会の運営と主任講師の責務

- 研修会運営の責任者は主任講師です。主任講師は研修会の目的と責務を理解し、参加者の状況を把握し、十分な成果をあげるようスタッフの指導助言を行います。
- 主任講師は、各スタッフの担当する各セッション、及び隊運営や班運営について責任を持ちます。事前に十分な打合せを行い、セッションの内容や隊・班運営等の指導方法について指導・助言をします。

②スタッフと奉仕者について

- スタッフは県トレーニングチーム・ディレクターが、指導者訓練実施年間計画に基づき、適任者の中から選任します。
- また、開設担当地区の指導者養成委員の中の 1 名を生活を担当する隊付として、スタッフに組み入れます。委員会の代表としてかつ 1 指導者として、隊運営の補佐、渉外事務、会計、庶務、記録、食料調達等を担当していただきます。
- 県指導者養成委員長は、各地区指導者養成委員長と協議の上、年間計画として、当研修の業務を担当する地区を決め、業務を実施します。

③セッションの構成と担当について

- 野営法研究会 Step2 は、前述のように「高度な、ボーイ隊のキャンプ」展開します。ボーイ隊・ベンチャー隊の隊長に必要な知識や技能は、展開される隊キャンプの日課やプログラムの中に組み込むようにし、Step1 のようなセミナー形式（セッション）として構成・展開はしません。
- 班長役のスタッフは、「班長」として班員（参加者）を指導・リードし、参加者の意識と精神を、事前に確認したボーイ隊指導者に求められる方向を舵取りしながら、本来のボーイ隊の活動が楽しく体験できるよう、また、参加者自身が野営法の修得に主体的に取り組めるよう、支援（指導・助言）します。

6. 野営法研究会 Step2 実施までのスケジュール

4～3ヶ月前	第一回打ち合わせ	指養委・担当コミ・主任講師	概要の確認と共通理解、実施体制とセッション構成確認
	講師スタッフ会議	講師グループ	セッション担当、目的、目標、内容等の確認
	実施内容の確定	主任講師	カリキュラムの決定と必要品の手配依頼
2ヶ月前	実施場所の確定	指養担当チーム	会場の確保、打ち合わせ、必要品の調達
	開設案内の発送	県指養委員長	研修案内データを県連事務局に送付
	参加者募集開始	県指養委員長等	定型外訓練は地区で集約、定型は県連事務局
	講師スタッフ会議	講師グループ	セッション内容等の確認
1ヶ月前	業務運営会議	地区指養委員長	必要品の手配進捗状況等の確認等
	参加者募集締切	地区指養委員長等	定型外訓練は地区で集約、定型は県連事務局
	名簿作成	地区指養委員長	講師と県連事務局等に
3～2週間前	参加案内発送	地区指養委員長	主任講師と連絡の上、スケジュール・持ち物等を
1週間前	参加者の把握等	地区指養委員長	キャンセル、変更等への対応、挨拶者の確認
～前日	開設の準備	地区指養委員長	会場確認、準備物確認、最終参加者と班編制等
	セッションの準備	講師グループ	口述資料、プレゼン資料、配付資料、教材の確認

7. 野営法研究会 Step2 にて使用する野営用品

- 本研究会 Step2 で使用する野営用品は、個人装備を除いて、原則として指導者養成委員会（トレーニングチーム）が管理する「ウッドバッジ研修所」で使用するものを基本とします。
- 基本的野営装備（テント、タープ、工具、炊具、麻紐、針金等）は土浦のWB研修所倉庫から、野営工作用の資材（竹、垂木）は倉庫にあるものを使用するか、別途購入するか借用するか等調達してください（土浦倉庫にもあるかも）。いずれも、事前のスタッフ打ち合わせに従い、業務担当が用意します。
- また、講師がセッションで使う教材やデモンストレーション用の野営用具や資材については、各講師が担当セッションの実施計画を立てて、必要なものを準備します。
- 但し、縛材等大型のものや多額の費用がかかるものについては、主任講師の指示により、指導者養成委員会の開設担当地区で用意するものとします。

8. 参加資格

野営法研究会 Step2 は、野営法研究会 Step1 を修了した、実施年度の加盟登録を完了した加盟員を対象に開催します。（★周知期間における参加の特例は、平成 25 年 3 月 31 日を以て終了しました。）

9. 認定

認定は、2泊3日のキャンプが終わった段階で、主任講師が各講師を意見を聞いて認定します。
参加する＝「認定」ではありません。Step2 のコース目標が達成されたかどうかを判断します。

Ⅱ．基本事項

- 日 時 平成 25 年 10 月 12 日(土) 午前 9 時 00 分～ 10 月 13 日(月・祝) 午後 5 時 00 分 2 泊 3 日
- 場 所 ボーイスカウト茨城県連盟「土浦訓練野営場」(土浦指導者青少年の家隣)
- 実施方式 テント泊による野外研修
- 主 催 者 日本ボーイスカウト茨城県連盟
- 開設担当 第 1,2,3 地区指導者養成委員会
- 主任講師 中島 清行 (LT)
- 講 師 村田隆浩、杉浦一弘、河合敏行、鈴木義之、若林正則、大月健人、菊地 永
- 業務スタッフ 業務主任 地区指導者養成委員長
業務担当 地区指導者養成委員及びトレーニングチーム員等(若干名)、内 1 名は「隊付」役として、生活・安全を担当する。
- 定員・班編制 6～8 人 / 班×2 班(以上) = 12 名以上で実施
- 参加費 ¥8,000
- 日程とセッション構成
○別に示します。
- 参加者の持参品
○標準的な持参装備品を巻末資料として掲載してあります。参加者には「標準的個人装備」として提示してください。
○ただし、これが全てではないことも併せて連絡するようお願いします。その部分については、装備表の最後に「その他必要とおもわれるもの」に該当・・・とします。
- 食事の扱い
○この野営法研究会 Step2 は、ボーイ隊の「班」の構成員として野営の基本を実践的に学ぶものですので、食事については「各班」での「自炊」とします。もちろんスタッフも自炊とします。指導者養成委員会の調理支援は不要です。
○初日の昼食は各自で弁当持参(コンビニ弁当可。ゴミは持ち帰りを徹底。)とします。講師スタッフ分は業務で用意してください。
○「米」は参加者は持参することとしますが、スタッフのお米については、業務側で用意してください。
○それ以外の副食(おかずと味噌汁の材料)は、標準献立に従い業務で購入し、各班ごとに配給してください。特に食材については、「セッション」と密接な関係がありますから、担当講師の指示により、適するものを購入してください。(それらの対応のため、業務の担当者を「隊付」として、スタッフに組み込んでいます。スタッフから業務への指示は、事務的なことを除いて隊付を通して行います。)
○配給については、WB 研修所方式ではなく、TT 研究集会で定めた方法で行います。

Ⅲ．参加者への対応

●Step2 のレベル設定

- この野営法研究会は、「ボーイ隊の高度な野営」という位置づけを取っていますが、この「高度な」のイメージはベンチャーの「隼章」レベルを想定しています。この「隼章」の位置づけは「より高度な野営、移動キャンプができる」です。すなわち、ベンチャー「隼」は、この野営法研究会 Step2 レベルの知識・技能を持ち合わせていることとなります(あくまでも理想)。ということは、ベンチャーを指導する指導者は最低でもこのレベルは持ち合わせている、体験している必要がある・・・ということです。
- また、この「隼スカウトを対象としたスカウトキャンプが展開できるレベル」ですが、このレベルを具体的にこれだ！と示すことはできません。そのため、受講した参加者が常に「なぜなぜ？ どうして？」の意識を持ち、それを理解することで、ボーイ・ベンチャーの指導者として必要な資質とスキルを身につけ、ステップアップしていくことを期待するものです。

●参加者に対して

- 実際のところ、平成初期に WB 研修所の研修方向が「スカウトとしての体験」から「大人としての立場の研修」に質を転換してからの加盟した指導者が、登録の大部分を占めるようになりました。また、この Step2 に参加する指導者は、基本的にスカウトとしての「スカウトキャンプ」を経験していない方々が多くを占めています。たとえ、スカウトキャンプの経験があったとしても、現行 WB 研修所修了の指導者の下でのキャンプ、つまり、スカウトキャンプに求められる「規律と秩序」や「ちかい」と「おきて」、標準組織でのキャンプの実体験の経験値が少ない方たちです。このことを十分に考慮してください。
- 本来であれば、各隊で実施するキャンプの中で、指導者は「楽しく魅力あるキャンプ」→「挑戦し甲斐のあるキャンプ」

→「安全で安心なキャンプ」というステップでレベルアップしているハズなのですが、それを知る・経験する機会がないがためにスタートから先に進めない状態でのいるわけです。

そこで、このStep2では「野営基準」「スカウト精神」を確実に押さえ、獲得した知識や技能、方法やルールを是非使ってみたいという気持ちを起こさせ、それに環境、運動能力、実践能力、自己管理、観察と推理の理解などの基本の重要性に気づくよう支援していきます。

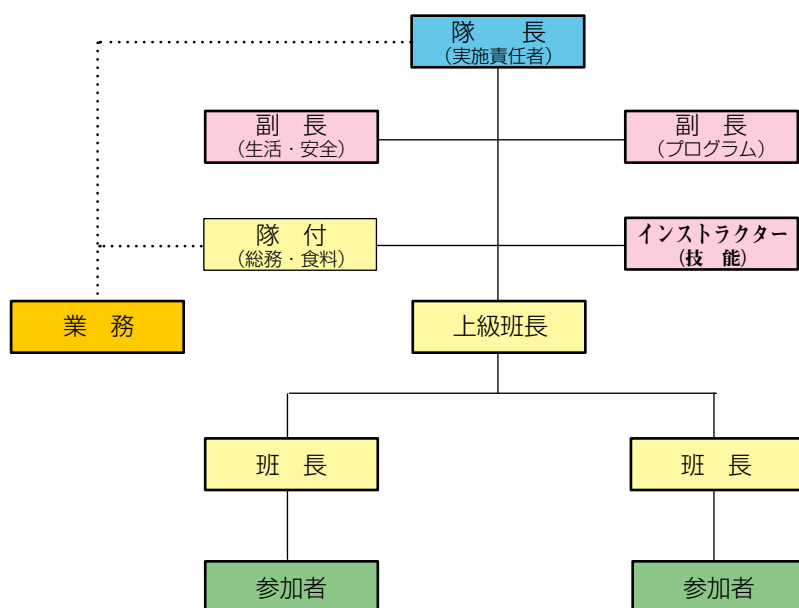
具体的には、スタッフが、良き役務のイメージを、自分自身の姿勢・態度・行動・言葉を以て明確に示すことで伝えていくのです。特に隊長・副長は、全体を統制し活動させる立場から、班長は、班の活動の中でモチベーションを高め、効果的な対班競点に繋がるように伝えなくてはなりません。

○また、この「野営法研究会」は、通常の講習会のように、「教える→教わる」というものではなく、

「疑問を持たせる」→「考えさせる」→「観察と推理をさせる」→「やってみる、互いに教え合う」→「理解する」

のプロセスで基本的に設計しています。特にこのStep2では、最初の「疑問を持たせる」に失敗すると、その後のプロセスが無くなってしまいます。常に「なぜなぜ？ どうして？」の視点を忘れることなく、主任講師はもちろんスタッフの皆さんもその点を十分理解して参加者を促し、学習支援を行ってください。

IV.Step2 運営組織（隊編成）



また、今回は左のような、標準的な隊編成(指導者)の下での「ボーイ隊の隊キャンプ」を模して研究会を実施します。

各スタッフは、それぞれが担当する「役務」と「任務」を十分に理解し、それを以て、研究会に臨んでください。そして、どんなキャラクターの指導者を演じるかを明確にして、それを徹してください。(例えば「仏の隊長」「厳しい鬼の副長」「天使の副長」「ドラえもん副長」「頼りになる上班兄貴」などなどです。(ニックネーム可))

あ、班長は「すんげえ班長」のみです。

役務・任務上の疑問点があれば、事前に主任講師に相談し、必ず解決しておきましょう。

●県連ホームページの「コミッショナー」→「県連TT関係」(パスワード『TT-IB』)→「野営法研究会」にある「野営法研修資料(S54)」は必ず読んでおいてください。

【Step2 隊キャンプにおける任務分担】

研修隊役務	スタッフ	任 務 内 容
①隊長	中島	キャンプ全般の企画・運営、規律の維持、安全管理、精神衛生、カウンセリング
②プログラム担当副長	杉浦・村田	プログラム企画・計画・準備、プログラム進行指導、プログラム運営全般
③生活安全担当副長	河合・菊地	日程進行、生活指導、健康管理、安全管理、キャンプ献立
④隊付(総務・食料)	業務	隊運営の補佐、渉外事務、会計、庶務、記録、食料調達(※業務より)
⑤インストラクター	宮田・海老原	技能面の指導(※基本的に他のTTに要請。適任者がいない場合は省略可)
⑥上級班長	鈴木	班長のとりまとめ役、全部の班の代表者。
⑦班長	若林・大月	班の牽引者、班の代表者。班員への指導助言。(※班の数だけ必要)

V. 開設にあたって

【会場設定・施設の確認事項】

1. 次のスペース（広さ）は十分に確保されているか
班サイト（最低 15 × 20m）：班数分
実習用広場（最低 20 × 20m 程度）：1
スタッフ用サイト：1 （スタッフの宿泊テント及び炊事、打ち合わせスペース）
セッション用マーキー：2 張 （施設を利用する場合は除く）
2. 会場使用料は、実施予算内に収まるか。
3. 野営装備や資材の準備・運搬への対応はどうか（倉庫からの距離、輸送手段）
4. 炊事・営火等の裸火と直火について、可能かどうか。
→炊事は、一応立ちかまどを利用
→営火は、焚き火台を使用予定
5. 立ちかまど用の土の採取（土掘り）、及び「堀力マド」用に穴の掘削はできるのか
6. 「水穴」は掘ってもよいのか
7. 会場（野外）は夜何時まで、使用可能なのか。施設の日課で制限を受けるのか。
8. 室内泊はできるのか（講師・スタッフ→できなければ野営）、その場合門限はあるのか
9. 施設の門は夜間鍵がかかってしまうのか
10. 講義のための屋根付きの野外教場はあるのか（→なければ室内で確保されているのか）
いずれもない場合は、マーキー（県連の H5）を張るのでその準備を（4 班だと 3 張、3 班以下だと 2 張）
11. 野外でコンセント（電源）は確保できるのか、またその位置は？（延長コードを用意する関係で）
12. 教場で使う「机」は確保できるか？（班× 2+ 講師用 3）
13. 野外で使える黒板・白板があるか。（なければ土浦倉庫から）
14. 施設の見取り図はあるか。
15. 近隣に、必要な種類と数量の食糧や資材を購入できる商店はあるか。

【装備・資材の確認事項】

1. 研究会で使用する、備品装備品は、できるだけ「県連」所有のものを使用します。県連主催の定形訓練なので。近隣団からの借用は、極力少なくしてください。破損時の弁償予算はありません。
※使用にあたっては、管理責任者である県指導者養成委員長に必ず連絡してください。
2. 今後、この研究会では、野営工作用の竹材、構築物用の丸太が多数必要となります。立ちかまど、調理台、食卓……すべて竹で作ります。
その確保については、できるだけ県連土浦倉庫のものを使用することとします。足りない場合は、指導者養成委員会に相談してください。購入資材については、県指導者養成委員会の管理下に置かれます。適切に管理してください。
3. 工作用の麻ヒモは、各班に 1 つ大巻のもの渡します。

【献立と食材について】

1. 食材は、事前の打ち合わせに従って、基本献立表の通りに食材を揃えてください。（業務の独自の判断はしないようにお願いします。）
2. 但し、調理については、実際の献立にこだわりません。材料の範囲で各班の任意とします。
3. おやつ、茶菓子は一切不要です。水分のみ十分に・・・お願いします。

【その他の準備物】

1. 国旗 …… 掲揚柱を作ってください。（業務サイドで用意してください）
2. 隊旗 …… WB 研修所の研修隊旗（BS 課程）を一式お借りします。
3. 班旗 …… 班旗を作る時間はありませんので、予め班旗を作って、各班に渡します。棒つきで。
4. プロジェクター …… 必要があれば、県連事務局から借用してください。
5. スクリーン …… 土浦の WB 研修所倉庫にあります。
6. マーキー …… 水戸の県連野営場そばの県連倉庫にあります。
7. 修了証・仮払金 …… 県連事務局から受けとってください。
8. 参加案内 …… 主任講師と業務主任の協議により、県指導者養成委員長名で県連事務局から発送します。発送は原則として実施日の 2ヶ月前です。
9. 参加許可書 …… 参加が確定した指導者には、参加許可書と標準的個人装備品リストをセットにして、

参加申込書に記載された電子メールに送ります。

【業務に依頼すること】

（事務的なこと）

- ①募集（募集案内の送付、参加者のとりまとめ、参加者名簿の作成、参加許可書の送付、等）
- ②参加者関係（修了証の作成、指導者手帳シールの作成、等）
- ③対施設（施設との打ち合わせ、利用に当たっての手続き全般、等）
- ④会計（会計処理、会計報告、等）
- ⑤資料の準備（参加者に配付する資料の印刷と配付、等）

（セミナー運営関係）

- ①会場の確保（Vの条件に該当する施設を主任講師に相談の上確保する、等）
- ②機材の準備と運搬（セミナーに必要な機材《前ページ「その他の準備物」含む》の準備と運搬）
- ③資材の調達（野営やプログラムに必要な資材の調達《主任講師、講師と調整をする》）
- ④食材の調達（セミナーの意図に沿った「献立」の食材等の調達）
- ⑤飲み物の用意（セミナー中の飲み物の用意）
- ⑥写真関係（全体集合写真の撮影と配付、記録用写真の撮影、等）
- ⑦その他（セミナーがスムーズに展開できるように、気配りと積極的な関与をお願いします。）

【スタッフに依頼すること】

- ①笑顔（スカウトの口元には常に笑顔がある。です。）
- ②立ち居振る舞い（参加者が、スカウティング手本にするのが「スタッフ」の立ち居振る舞いです。）
- ③積極性（何事も、先回りしてかつ積極的に行動・対応してください。）
- ④役割任務（隊長、副長、隊付、上班、班長…それぞれの役務任務を明確に参加者が掴み取れるように！）
- ⑤BS キャンプのイメージ（本来のボーイ隊のキャンプのイメージを参加者に伝えましょう。イメージは・・・）
 - ・基本動作・集散はきっちりと、自律的に。
 - ・活動はきびきびとかつ大いに楽しんで。（常に笑い声が溢れているように）
 - ・休憩はゆったりとリラックスして。
 - ・空いている時間《閑時》は何かを見つけて個人や仲間と研究を。（遊ばない）
 - ・安全には最大限の目配りと気配りと、先んじた防止対応を。
 - ・参加者が「安心なキャンプ」と感じられるような、それぞれの対応を。
 - ・常に活動的で、前向きで、協力しあって、目指す方向に一致して進む！！
- ⑥整理整頓（自分の身の回り、テントの中は整理整頓）
- ⑦危急時の対応（「そなえよつねに」です。雷やゲリラ豪雨対策も。）
- ⑧豊かな食事（量・質・種類のことはありません。参加者が豊かと感じられる雰囲気を出しましょう。そうは言っても、体と心が満たされる食事ができるように、献立を考えます。）
- ⑨目指すところ（この野営法ステップ2は、どこを目指しているのか、何を目標としているのか、参加者が何を感じ取れるように進めていくのかを明確に理解してください。）

Ⅵ. 野営法研究会 Step2 のセッション構成と日程表

※全てのセッションは、できる限り「楽しいスカウティング・ゲーム」として作り上げ展開してください。
セッションのは、各担当が主任講師の指導・助言を得て作成し、主任講師の承認を得てから実施します。

※隊キャンプのテーマは「**トレジャーハンティング**」(で無人島に行く)とします。

時 間	内 容 (セッション)	時間	担 当	場 所 等
第 1 日目				
～ 9:00	受付			
9:00 ～ 9:20	開所式	10		
9:30 ～ 10:00	オリエンテーション	30		
10:00 ～ 12:00	§1 野営基準	120	村田	
12:00 ～ 19:00	§2 設営(設備一式) + 晩ご飯(薪)		副長・班長	
16:30	・配給		隊付	
17:00	・国旗降納		当番	
19:00 ～ 21:00	§3 ナイトゲーム	120	杉浦	
21:00 ～ 22:00	(班会議) 情報交換等	60	全員	
22:30 ～	就寝			
第 2 日目				
6:00 ～ 8:00	(配給) 起床、洗面、朝食、点検	120	班長	
8:00 ～ 9:00	朝礼、スカウトタウン、日々の改善、活動準備	60	河合・菊地	写真撮影
9:00 ～ 11:00	§4 パッキングとフィッシング	120	中島	
11:00 ～ 15:00	§5 パイオニアリング or 読図ハイク(昼食含む)	240	杉浦、村田	
15:00 ～ 17:00	§6 焚き火と薪、ナイフ、ランタン、ストーブ	120	副長	ベース法
17:00 ～ 19:00	§7 たのしい炊事・おいしい食事	120	宮田・海老原	
16:30	・配給		隊付	
17:00	・国旗降納		当番	
19:00 ～ 21:00	§8 キャンプファイア	120	村田	
21:00 ～ 22:00	(班会議) 情報交換等	60	全員	
～ 22:30	就寝			
第 3 日目				
6:00 ～ 8:00	(配給) 起床、洗面、朝食、点検	120	班長	
8:00 ～ 9:00	朝礼、スカウトタウン、日々の改善、活動準備	60	河合・菊地	
9:00 ～ 10:00	§9 活動準備(各自の課題解決)	60	全講師	カテゴリー別対応
10:00 ～ 13:30	§10 ワイドゲーム	150	杉浦・村田	
	昼食を含む			
13:30 ～ 15:30	§11 撤営	120	副長	
15:30 ～ 16:30	§12 評価とふり返り	60	中島	
16:30 ～ 17:00	閉所式		業務	

- ※ 県の**定形訓練**です。WB研修所と同様の位置づけで研修を行います。
- ※ 修了証は、履修認定後に渡します。
- ※ 講師・業務スタッフとも、規律と秩序の意識をもって、研修を運営してください。
- ※ 何度も言っていますが、講師の皆さんの平素の姿を参加者は見えています。だらしなれば、それがスタンダード(標準)となってしまうことを十分に自覚してください。講義中とそれ以外の区別をきちんととりましょう。
(セッション展開中、担当以外のスタッフが、参加者の見える所で、集まって談笑したり、喫煙したり、セッションの妨げとなる行動をしたりすることは、全ての訓練に於いて自粛すべきことです。)

VII. 野営法研究会 Step2 各セッション内容について

- Step2 のコースレベルを明確にするために基本事項として別途『実施項目』が設定されています。ここでは、今回のセッションの構成と流れ（太字）にしたがい、それを【関連科目】として記述しました。これを参考にして、これまで述べた Step2 の位置づけ、方法、レベルを確認しながら、セッション担当者は、担当セッションの指導案・実施計画書を作成してください。
- また、各課目の具体的な解説（ねらいと展開）については、その一例を別紙として添付しています。ここには、Step1 と Step2 の課題の解説が並記されていますので、Step1 と Step2 を比較して、ステップアップの度合いを確認してください。

S	セッション タイトル	実施項目（設定課題）
	オリエンテーション (Step2 の心構え)	●（1人1人が理想の）スカウトという想定で、実際にキャンプを楽しむことを第一とする。 ●すなわち、ボーイ隊の標準隊での指導者や班長の任務がどう遂行されるかを知り、班員はどう「班」を形成・樹立していくかを体験する。 ●同時に、キャンプに必要な知識・技能を知り、その根拠（「なぜそうなるの?」「どうしてそうするの?」）を探って、より深い知識に繋げていくこととする。 ●キャンプの全ての場面で、「疑問を持たせる」→「考えさせる」→「観察と推理をさせる」→「やってみる、互いに教え合う」→「理解する」を実際におこなう。安易に教えない。 ●「班対抗」の楽しさと醍醐味が十分に味わえるように、上手にリードする。
1	野営基準	●「野営基準」とは何か、何故ボーイスカウトのキャンプには、この野営基準が存在するのかわかると理解させる。（野営基準そのものは Step1 で修得している） ●指導者として、その基準をどう理解し、指導していくかの観点で進める。根拠（「なぜそうなるの?」「どうしてそうするの?」）を探っていくこととする。 【関連科目】 1- ①「スカウトキャンプ」の意義と方法を理解する。 1- ②「ちかい」と「おきて」、そして班制度をどのようにキャンプに活かすかを知る。
2	設営+晩ご飯	●ここから「隊キャンプ」が始まる。集合→開会セレモニーから始まります。 ●班対抗でどちらが早く所定のレベルを満たすサイトを完成させ副長の合格を勝ち得るか。また、夕食を同時に作り始め、どちらが早く「いただきます」をするかを競う。 ●1食分を供出させて、その料理の出来上がり进行评估する。→表彰 ○セッション担当は、全食事の献立も作成し、業務に調達と配給の指示をする。 【関連科目】 2- ①キャンプ地の選定の基本的条件と自然環境を保護するための注意点をを知り、実際に適切なサイトを選定できる。【野営章 (3) 改】 2- ④キャンプの目的に合ったキャンプ場を選び、下見に必要な項目を挙げ「下見チェック表」を作成し、実際に下見を行う。 3-1- ①班のキャンプサイトの理想的な配置図を描き、実際にその通りに設営をする。【野営章 (4) 改】 3-1- ②隊本部と班サイトの位置関係、セレモニー等の広場の位置関係を知る。 4-1- ② 3-1- ①のサイトレイアウトに基づいて、設営における優先順と役割分担による分担設営で、効率的な設営をする。 4-2- ①ドームテント、家型テント、指導者用テントについて、特徴、用途、構造と機能を知り、他の1人と協力して適地にそれぞれのテントを正しく張り、また手入れして格納をする。【野営章 (4) 改】 4-2- ②毎日、天候等に応じてテントの配置、及びタープの張り方を変更する。（雨、風、タープ下での作業の度合いを考慮） 5- ①左記 Step1-5- ①をより発展・完成させた野営工作物（かまど、調理台、食卓、工具置き場を含む3種類以上）を角材、竹、丸太等を使用して作製する。ただし、全て可搬型とし、その部材の接続・結合は紐とする。 5- ②工作に必要なロープ結びに習熟し、実際に工作物に使用する。（Step1-6- ①「結索」と関連） 7-2- ①戸外であり合わせの材料を用いて、地面を掘らない方法で班キャンプ用の3種以上のかまどを作る。【炊事章 (1)】

	キャンプ生活全般 (班長の指導方向、班員としての姿勢)	●このセッションは、このキャンプ生活全般を通して、できるものをやっつけよう。 ●また、班長は常に「班対抗」を班員に意識させるが、つい「早い」に意識が行ってしまいがちとなる。大切なのは「早く、かつ確実に」であり、最終的には「早く、確実に、かつ機能的に」となっていることが「班対抗」の本来の意味であることを知らしめ、このStep2 キャンプの期間内にステップアップしていくように仕向ける。(最終形をイメージさせよう) 【関連課目】 3-2- ④班装備品を各班に責任を持って管理させる方法を考える。 4-2- ③異なる天候(晴天、雨天、強い風等)によるテント及び床の乾燥方法を知る。 8-1- ③川などの自然水を使用するときの簡易濾過装置を図解し、作製する。また、滅菌ができる。【炊事章(6)】 8-1- ④キャンプにおける用便、ゴミ処理ならびに食料保管について、衛生上注意する点を知り、実際に1班が使用するのに十分な便所、ごみ穴を作る。【環境衛生章(6)】 10- ①キャンプにおける儀式、儀礼、キャンプファイア、スカウトオウンの教育的意義について理解し、説明できる。【野営管理章(7)】 10- ②キャンプ地において国旗の掲揚の準備をし、掲揚及び降納を適切に実践する。 10- ③朝礼、終礼についてその意義を理解し、実践する。 11- ①天気予報等の情報の収集を常に行い、キャンプへの影響を考え、その対策を実際に講じる。 11- ②雷に関する一般知識と避雷について具体的な説明と避雷行動が実践できる。【測候章(2)改】 11- ③獣類、昆虫、鳥類、魚類、雲の状態を観察して行う天候の予想法を3種以上知る(観天望気)。【測候章(4)】
3	ナイトゲーム	●テーマ「トレジャーハンティング」に沿った設定の「班対抗のナイトゲーム」を行う。 ●ナイトゲームは楽しいものである。その楽しさを知ってもらうと同時に、ゲームの選び方安全への配慮、必要装備についても検証する。 【関連課目】 8-3- ①夜の野営地(サイト、テント内、各施設)における適切な灯かりの取り方を理解し実践により確認する。【野営章(8)】 8-3- ②左記 Step2-8-3- ②について、灯火の特徴の比較表を作成し、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できる。
4	パッキングとフィッティング	●ベースキャンプを移動するという設定で、全ての個人装備をパッキングして、2km 程度のハイクを行う(周回コース)。 ●実際に歩いて、バックの背負い方、パッキング、靴のフィッティング等をチェック・指導しビフォー&アフターの違いを実際に体感させる。 【関連課目】 3-2- ①指示された期間、季節、形態別にキャンプに必要な個人装備と選択基準を知る(軽量・信頼性・機能性・コンパクト、スタッキング等)を知り、リストを作る。 3-2- ②個人装備の選び方、正しい取扱い方を知り、2泊以上のキャンプに必要な個人装備を適切な大きさのバックにパッキングし点検を受ける。(季節感を取り込むこと)【野営章(9)】 3-2- ③個人装備をできるだけ小さくパッキングする(班装備品を個人装備に加えて運搬することを考えて)。 3-2- ⑤シューズの選び方を知る。自分の足のサイズを実測し、フィールドで必要な機能を考慮して、自分に合ったものを選ぶ。
5	パイオニアリング	●テーマ「トレジャーハンティング」に沿って、川に渡るための「軽架橋」と敵を発見する「物見櫓(信号塔)」を作ってみる。(設計、構造・強度、安全性、使用勝手等含む) 橋はファイアーサークルの土手の切れ間を活用して作製し、塔は広場で作製する。

5	パイオニアリング (つづき)	【パイオニアリング・関連課目】 5- ④麻紐、ジュート紐、細引き、針金等3種類以上の縄等で、縛材をする場合の長所と短所を実証しそれをレポートとして報告する。 6-1- ①安全なロープ選び (構造・材質・用途) を理解する。 6-1- ②ロープとの正しい使い方と保守を理解する。 6-1- ③安全な結びと用途を理解する。 《①②③「図解カラー・ロープとひも結び百科 (富田光紀監修・主婦の友社)」、第 4 章参照》 6-1- ④次のなわ結びが確実にできる。 ・よろい結び ・てこ結び ・バックスプライス ・索端止め ・バタフライノット 6-2- ①これまで取得した結策技能を活用して、班サイトのゲート、筏、軽架橋、信号塔【隼章 (2)- イ】を作成する。
6	焚き火と薪、ナイフ、ランタン、ストーブ	●明日の「トレジャーハンティング」本番への準備ということで、基本的な道具の使い方、火の熾し方・管理を学ぼう。 【関連課目】 7-2- ②キャンプ地付近で、得られる樹木を用いて、3食分の薪を作り実際にそれで焚き火をする。 7-2- ③安全で効果的な「焚き付け材」を自作し提出する。 7-2- ④ガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ及び薪による炊事における、自然保護及び地球環境保護(CO₂ 排出)の関係について理解している。【炊事章 (3)】 11- ⑤次のスカウト用具が消火に役立つ場合を説明し実演する。 ・ロープ ・オノまたはナタ ・グランドシート ・フライシート ・毛布 ・笛 ・ネッカチーフ ・スカウトハット ・布バケツ 【消防章 (6)】
7	たのしい炊事・おいしい食事	●ここは無人島という設定で、島で手に入るもの、持ってきたもので、晩ご飯を作る。島で手に入る食糧は、§5 と連携してもいい。また、島の動物に食糧を荒らされたという設定で、持ってきた食糧に使用制限をかけることもあり。 【関連課目】 5- ③污水处理の際に必要な措置を調べ、環境に配慮した污水穴を実際に作製・使用する。 7-1- ④環境に優しい炊事法、ゴミを出さない調理法を研究する。 7-1- ①非常食 (簡易食品を含む) 5種を挙げ、それを調達し、その扱い方を確認する。また、保存方法を知る。【炊事章 (10) 改】 7-1- ②青少年期における発育成長に必要な栄養素の種類と量、これらを多量に含有する代表的食糧品を例示する。【炊事章 (8)】 7-1- ③②をもとに、栄養のバランスを考えて、班キャンプ3日分の献立表を作り、次の事を計算して表にする。 ・栄養価計算表 ・必要な食糧材料表 ・食料品店で調べた単価による経費見積表 ・1人当たりの費用 (分担金) 。 7-3- ①次のキャンプ料理を作る。(1班＝4人分とする) ・食用野草を含む野菜料理：3種以上 (※山野草を採取上の注意事項の説明を含む。【TB-E2-4】) ・牛・ブタ・鶏などの肉料理：2種以上 ・塩干魚及び生魚の料理：3種以上 ・小麦粉を用いたダンパー、またはツイスト【炊事章 (5)】 7-3- ②米をコッヘルで炊く場合の、米の新古、水加減、火力と炊飯時間の関係を研究し比較表を作成し提出する。 7-3- ③ Step1-7-3 ③について、腐敗のメカニズムを理解し、腐敗防止法を使った食料保存を3種以上検証する。
8	キャンプファイア	●明日出発するトレジャーハンティングにむけい英気を養うという設定で、火を囲んで歌を大いに楽しく歌おう。いかに、モチベーションを上げるかを考慮して。 【関連課目】 ※スカウトソングを 20 曲、歌って覚える。 この研究会での営火は、特に「これ」という形はありません。 できれば、ギターなどを用意してベンチャーっぽい営火もいいでしょう。

9	活動準備 (各自の課題解決)	●「トレジャーハンティング」に向かうに当たって、不安の解消という設定で、各自が解決したいことについて、解決のための支援・助言をする。 【関連課目】 2- ②中期(長期) キャンプの日程、プログラムが立てられる。 3-2- ⑥キャンプに必要なウェアとその機能を知り、その活用の場面を考える。 3-2- ⑦季節と状況に応じたスリーピングバッグの使い方、応用法を知り、実践する。 4-1- ① 3泊4日の隊キャンプに必要な全ての装備(隊装備、班装備)をリストアップし(Step1-3-2- ④)、そのリストにしたがって準備・パッケージ化し、輸送する。(車載、宅配等) 8-1- ① Step1-8-1- ①を実践し理解をより深めると同時に、原隊のキャンプで実際に指導する。 8-1- ②スカウトの前の喫煙について、その問題点と影響を列挙し、その対策と必要措置を考える。 8-2- ①隊キャンプを点検し、次の項目について評価表と点検報告書を作成する。【野営管理章(2)】 ・キャンプ地の選定(水質調査を含む) ・食糧と燃料の貯蔵 ・便所とゴミ捨ての衛生処理 ・炊事場の設計と工作 ・炊具、工具の手入れと整頓。 ・キャンプにおける安全と秩序保持 ・役割分担とチームワークの良否 8-2- ②朝の点検と夜の点検の重要性と心構えを説明し、実際におこなう。 8-4- ①キャンプ中に起きるかもしれない突発事故(例えば急病、火災、盗難、虫害、風水害など)の予防と起きた場合の運営体制と対応措置について説明できる。◆【野営管理章(4)】 8-4- ②水辺または水泳プログラムを有するキャンプの安全管理について、特に注意する点を説明できる。【野営管理章(6)】 8-4- ③指導者のキャンプにおける飲酒について、その問題点と影響を列挙し、その対策と必要措置を考える。 11- ④外出着(上着、ズボン、シャツ、ソックス)及び靴を20秒以内に脱ぎ、水中に飛び込むこと。【水泳章(3)】
10	ワイドゲーム	●財宝を見つけるために「地図の基本」と「読図と方法」、また「現在地の見つけ方」等を研究する。 ●さあ「トレジャーハンティング」に出かけよう。 ○地図とコンパスを使って「宝探し」のワイドゲームを行います。 これまでのキャンプで準備したこと。ものを総動員して、キャンプの仕上げとして実施。CPでアイテムをゲットし、それを次のCPで使って課題を解き、さらにアイテムをゲットする・・・それを繰り返してようやく財宝が手に入られるという設定。 ○ここで、これまでやってきたセッションと「想定」のマッチングが試されます。如何に楽しく盛り上がる想定(ストーリー)でのゲームが展開できるか、担当者の腕が試されます。参加者には、いかに「想定」が大切なのか、それに基づいたプログラムが魅力的で、はまりやすいのかを実体験してもらいます。
11	撤営	●無事に宝をゲットしたが、巨大ストームが近づいている・・・という設定で、できるだけ早く、確実な撤営を実行する。役割分担と作業プロセスを明確に。最後に無事に帰還したと言うことで「弥栄」をおくる。当然「班対抗」。 【関連課目】 4-2- ④雨天時の格納法と汚れた場合のクリーニング法を知り、雨天時に地面に接することなくテント・タープをたたむことができる。 4-3- ①撤営について、天候等による対応の変化を理解し、効率的な撤収、空間を考えた効率的なパッキング・収納を考えた効果的な撤収を、所定の時間内で実践する。 4-3- ②収納時の点検をし、破損した物を修理もしくは補填し、班装備を整備する。 13- ①研究会終了直前に、再度個人装備等の点検を行い、それぞれについて使用の有無、頻度、必要な数、装備の過不足等について各自でチェックする。

12	評価とふり振り返り 課題提示	●テーマ「トレジャーハンティング」のストーリーに沿って行ったこのキャンプ感想をそれぞれから聞き、「想定」による効果を確認させる。 ●また、標準の班でのキャンプをしてみて、班の人数、班長の養成、隊組織、年プロ・月プロの企画・計画・準備・・・などの大切さについて、改めて意識させる。 【関連課目】 2- ③実施手続、連絡・調整等の手続きができる。(茨城県「キャンプガイドライン」参照) 3-3- ①1泊キャンプに必要な個人装備を携行し、徒歩行程約 12km 以上の距離を他の1名と共に 24 時間以上にわたって旅行し、その報告書を提出する。(野営法研究会 Step1 の仕上げとして後日実施) 12- ①スカウトキャンプの点検評価に必要な項目を挙げ、評価表を作成し、実際に評価を行う(原隊でのキャンプでの実践報告でよい)
----	---------------------------	---

野営法研究会 Step2 課目とその意図とねらい

★印は事前課題として実施し、申込み時に報告書として提出するもの。

◆印は研究レポートとして提出するもの（研究期間は事前でも事後でもかまわない）。

◇印は事後課題とし、報告書を提出するもの。

【 】は関連進歩課目。 TB：ターゲットバッジの略

Step2（基本コース） BS,VS 隊長必修

項 目	課 目	意図とねらい
1. スカウトキャンプについて	①「スカウトキャンプ」の意義と方法を理解する。 ②「ちかい」と「おきて」、そして班制度をどのようにキャンプに活かすかを知る。	① どうしてボーイスカウトはキャンプを行うのか、それはどんな意図をもって、どんな効果を狙って、どのように行われるのかを、Step1 では「知る」だったが、ここではそれを再確認するとともに「班制度」に落とし込んで、それをスカウトキャンプに適用できるよう理解する。 ② 「ちかい」と「おきて」については、キャンプの全てのシーンで実践できるが、特に野営生活面で、1人のスカウトとして、また班という小社会の一員としてどんな意識でどのような行動を取ればいいのかを考え（→能動的積極的関与とチームワーク）、実行できるように持って行くことが求められる。つまりこれらのモチベーションをどう高めていくかである。それには、常日頃から機会を設けて、これらについて、GBを通じてスカウトに理解させることが必要。
2. 計画・準備・プログラム	① キャンプ地の選定の基本的条件と自然環境を保護するための注意点をを知り、実際に適切なサイトを選定できる。【野営章(3) 改】 ② 中期（長期）キャンプの日程、プログラムが立てられる。 ③ 実施手続、連絡・調整等の手続ができる。（茨城県「キャンプガイドライン」参照） ④ キャンプの目的に合ったキャンプ場を選び、下見に必要な項目を挙げ「下見チェック表」を作成し、実際に下見を行う。◇（後日報告書提出）	① 指キャンP.12-14をよく読んで、実際にキャンプを行えそうな近隣の場所 3-5 カ所を巡って評価表を作成し、キャンプの目的に合った場所を選定してみる。 自然環境については、ミクロ的に見るかマクロ的に見るかによって異なる。いずれにしても、「残すのは感謝のみ」をどう実行するかがミソとなる。 ② 中期（長期）キャンプの日程と短期キャンプの目的と効果の違いを理解させることからスタートする。キャンプ地のロケーションを活用し、目的・目標、そしてスカウトのニーズを満たすキャンプ日程・プログラムを、諸条件を考えながら立ててみる。このSTEP2は中短期キャンプであるが、意識としては中長期キャンプとして考えていただきたい。 ▶ 更には、モチベーションの維持、疲労と休憩、日々の（大きな）改善など、短期ではできない取り組みなども考慮する必要がある。 ③ キャンプを実際に行うにあたって、自治体や警察・消防、団・地区（コミッショナー含む）・県連への届け、借用手続、打ち合わせ、救急医療体制、事故時の連絡体制、避難体制等の必要な手続を確認し、それをまとめてスカウト・保護者向け「しおり」や指導者で情報を共有するファイルを作成する。 ▶ 同時に、キャンプ実行組織表を作成し、指導者それぞれの業務分担と責任体制を明確にすると同時に、その補助・支援の体制も構築しておく。このレベルまで行うことを知る。 ④ は、①②③の仕上げと確認の意味を含めて実際に行う。特にプログラムについては、安全と危機管理を重点に確認する。→ Step2 では下見まではできないので、下見の実施については、ここで学んだことを、後日実際に適用することとする。

3. 設営の準備 -1. サイトレイアウト	①班のキャンプサイトの理想的な配置図を描き、実際にその通りに設営をする。【野営章 (4) 改】 ②隊本部と班サイトの位置関係、セレモニー等の広場の位置関係を知る。	① Step1-3-1 ②を更に発展させ、そのキャンプサイトに合わせた配置や動線を考えてテント、工作物等をレイアウトする。そして、実際にテント等を張り、工作物を設置してみて、動線や配置を検証する。テント屋タープのライン（綱）の取り回し方を考える、 ②隊本部（指導者サイト）は、各班サイトから等距離（班サイトを同心円状に配置した中心）で、セレモニー広場の近くに置くことが基本（これはBSの場合。CSは異なる）。ここで指導者はスカウトに準じた規律ある生活を送る。指導者のサイトはクローズせずに、セミオープンつまりスカウトから指導者の姿がある程度見えるように作る。指導者の生活意識の在り方が問われる。 ▶ CSとBS、VSのそれぞれの違いを、そのキャンプの目的に即して考えて行く。
-2. 装備・パッキング	①指示された期間、季節、形態別にキャンプに必要な個人装備と選択基準を知る（軽量・信頼性・機能性・コンパクト、スタッキング等）を知り、リストを作る。 ②個人装備の選び方、正しい取扱い方を知り、2泊以上のキャンプに必要な個人装備を適切な大きさのバックにパッキングし点検を受ける。（季節感を取り込むこと）【野営章 (9)】 ③個人装備をできるだけ小さくパッキングする（班装備品を個人装備に加えて運搬することを考えて）。 ④班装備品を各班に責任を持って管理させる方法を考える。 ⑤シューズの選び方を知る。自分の足のサイズを実測し、フィールドで必要な機能を考慮して、自分に合ったものを選ぶ。	①リストを作る際には、そのカテゴリーを「必ず使うもの」「キャンプを快適に過ごすためにあれば便利なもの」「めったに使わないもの」の3つに分けてリストアップする。また、長期野営や雪中キャンプの経験がなければ、具体的にリストアップできないだろうから、Step2 履修前にある程度に経験をしていることが望まれる。 ▶また、用具の選択基準の（軽量・信頼性・機能性・コンパクト、スタッキング等）については、具体的に例示することで、理解を促してもらいたい。 ②実際に背負って行動できる重量は個人差はあるが、成人で体重の1/4までと言われており、ボーイ年代では1/5程度が限界だろうと思われる。2泊以上となると、①「必ず使うもの」はもちろん、「キャンプを快適に過ごすためにあれば便利なもの」を携帯することになる。これを指導者自身が背負って歩く体験することは非常に大切なことである ▶一般装備に加え、冬は防寒装備が、夏は遮熱・防虫・着替え等の装備が加わってくる。 まずは、1つのバックに全てを詰め込むこと。次に使用頻度とシチュエーションを考えて、ウエストバック等を考える。そして、1～2kmでもいいから、実際に歩いてみる。Step1で学んだバックのフィッティングを再確認し、伝達できるようにしよう。 ③小さく・・・とは、必要な装備をできるだけ少ない容積で納めること。装備を重ね合わせる、隙間をなくす、隙間に詰める、小さく折りたたむ、薄手の衣類にする・・・等が考えられる。基本的に装備を買い揃える時に、パッキングを意識して小さくなる物を選ぶようにする。 ▶班装備を分担する場合は、それを含めて重心や上下のバランスを考えてパッキングする。 ④これについては、いろいろと考えられる。 ⑤シューズの選択基準は、まず使用状況を考えること。山岳か丘陵・低山か、平坦路なのか、荷物はどれだけ背負うのか等である。これを総合的に判断して選ぶモデルが決まる。次に、自分の足に合ったものを選ぶこと。「足に合った」は以外と難しいので、別紙で述べるが、つま先の余裕を必ずとること、午後もしくは夜に靴を選びに行き、使う状況を再現して（使用する靴下等を履いた上で）必ず履いて確かめること。

	⑥キャンプに必要なウェアとその機能を知り、その活用場面を考える。 ⑦季節と状況に応じたスリーピングバッグの使い方、応用法を知り、実践する。	⑥まず基本的に考えなくてはならないのが「保温」と「汗の蒸散」。このメカニズムを理解すれば、どんなウェアが必要なのか解ってくる。袖丈、身ごろ丈、大きさについても言及。また、身体の発達が未成熟の少年と若者、年配者の新陳代謝、身体機能の違いについても考慮していこう。 ▶また、季節や標高、バックを背負う否か等にも言及する。 ⑦化繊とダウンの使用シーンの違い、低地と高山、活動形態によるパッキングの変化などいくつかの項目を設定して考えさせる。 ▶加えて、カバー、シーツについても、その機能と使用方法を考えて行く。 ▶また、実際に持っているスリーピングバッグでは性能不足である場合の、あるものを利用した性能アップについて考えさせる。
-3. 試行・予行	① 1泊キャンプに必要な個人装備を携行し、徒歩行程約12km以上の距離を他の1名と共に24時間以上にわたって旅行し、その報告書を提出する。 ◆（野営法研究会 Step1 の仕上げとして後日実施）	① 3-2 ②でも装備を背負って歩く体験を求めているが、まず手始めに1泊2日の装備を背負って4km（1時間）を歩くことを経験してもらう。時間的にこれ以上は無理なので、左記課題については、Step2 コース修了後6ヶ月以内実施して報告書を提出すること（任意）とする。 ▶もちろん、その際に途中で1泊キャンプを行うこととなる。単に歩くだけではなく、1級ハイク同様、なにがしかの課題をもって臨んでもらいたい。 ▶この移動キャンプについては、指導者自ら体験することに大きな意義がある。したがって、きちんとした手続きと実践、そして報告を求めることが大切。何故指導者がこれを体験しなくてはならないか、疑問を持つようではダメだ。
4. 設営・撤営およびメンテナンス		この課目も、コース全体を通して行うことになります。
-1. 設営の順序	① 3泊4日の隊キャンプに必要な全ての装備（隊装備、班装備）をリストアップし（Step1-3-2-④）、そのリストにしたがって準備・パッケージ化し、輸送する。（車載、宅配等） ② 3-1-①のサイトレイアウトに基づいて、設営における優先順と役務分担による分担設営で、効率的な設営をする。	①これについては、キャンプの目的・形態・シーンによりいろいろ考えられるが、基本はきちんと使いやすく区分整理され、それを参加者が理解していること。運搬しやすいように、また破損しないようにきちんとパッケージ化されていること。リストに従い複数人でチェックすること・・・など。 ②これは、実際に行ってみる。時間制限のある中で、如何に効率よく設営を行うか、役割分担がものを言う。「班」として如何に制限時間内に、基準以上のレベルをもって作業を終わらせるかを求める。
-2. テント・タープ等	① ドームテント、家型テント、指導者用テントについて、特徴、用途、構造と機能を知り、他の1人と協力して適地にそれぞれのテントを正しく張り、また手入れして格納をする。【野営章(4)改】 ② 毎日、天候等に応じてテントの配置、及びタープの張り方を変更する。（雨、風、タープ下での作業の度合いを考慮） ③ 異なる天候（晴天、雨天、強い風等）によるテント及び床の乾燥方法を知る。 ④ 雨天時の格納法と汚れた場合のクリーニング法を知り、雨天時に地面に接することなくテント・タープをたたむことができる。	①は設営時と撤営時に確認したい。 ②は日々の改善で ③は日々の改善で ④は撤営、メンテ時に行う。

-3. 撤営の順序・収納	①撤営について、天候等による対応の変化を理解し、効率的な撤収、空間を考えた効率的パッキング・収納を考えた効果的な撤収を、所定の時間内で実践する。 ②収納時の点検をし、破損した物を修理もしくは補填し、班装備を整備する。	①つまりは、保管できるまでの状態をその場で作れるかどうか・・・である。できるのであれば行うし、できないのであれば帰ってから実施する。現地で無理に行くことはない。ただ、帰ってから直ちに乾燥収納ができないのであれば、現地で無理してもある程度までの作業をしておいたほうがいい。 ▶「空間を考えた」とは、要はタープの利用だ。雨天でテントが濡れてしまっている場合は、泥を付けないよう、また、汚れているものときれいなものを接することのないよう、ブルーシート等防水布にくるんで、他のものをそれ以上濡らさないようにして、持ち帰る。 ②まずは、大切に使うことで破損や劣化をさせないことが第一。次は、きちんとメンテ・修理をして長く使うこと。安易に買い換えないように。また、グッズと同じで、多少高くてもメーカーでちゃんと修理を受けてくれるものを揃えるようにする。 ▶修理するモノが出てしまった場合は、メモを取ると共に荷札に簡潔に状況を記入してを取り付け、基本的に収納せずに直ちに修理を行う。いつ、誰が、どのように対応するかを協議・明確にし、その実行を決める。
5. 野営工作物	①左記 Step1-5-①をより発展・完成させた野営工作物（かまど、調理台、食卓、工具置き場を含む3種類以上）を角材、竹、丸太等を使用して作製する。ただし、全て可搬型とし、その部材の接続・結合は紐とする。 ②工作に必要なロープ結びに習熟し、実際に工作物に使用する。（Step1-6-①「結索」と関連）（スキルトレーニング課目） ③污水处理の際に必要な措置を調べ、環境に配慮した污水穴を実際に作製・使用する。 ④麻紐、ジュート紐、細引き、針金等3種類以上の縄等で、縛材をする場合の長所と短所を実証しそれをレポートとして報告する。	①「発展・完成」の意味は、より確実な結び、無駄のないサイズ、確実な構成・構造であって、特に多機能を求めているワケではない。特にサイズに関しては、必要最小限の大きさを旨とする。すなわち、使用材料の無駄を省き、可搬性を良くすること。ただし、それによって性能・機能性が劣ることは意に反する。 ▶紐によって工作物を作ることについては、時代に遅れている等の意見もあろうが、既製品は単一用途であるため用途別に揃えなければならないし嵩むし、もし忘れたら困ってしまう。竹と紐であれば、実に多種多様なモノが作り出せる。何でも揃っている世の中であればこそ、竹と紐で作ることのできる技能、創意工夫で使いやすさ、構造などを考えることが、観察と推理の基本となり、将来大いに役立つということを知る。 ②どこにどの結びを使うことが適切であるかを知り、少なくとも参考書を見ないでそれが結べること。（この観点からスキルトレーニングのメープログラムワークを実施してみてもよい） ③汚水中に含まれる固形物はすべて漉し取ることを第1に考え、そのための工夫をする。既製品を否定している訳ではない。水切り袋タマネギ袋をそのまま使うのではなく工夫して使う。 ④素材そのものの引っ張り強度、ねじり強度、摩擦度、縛圧、切断使用する用具、使用後の処理、水分の影響等、実際に使うことを想定したもの。
6. 結索 -1. 基本	①安全なロープ選び（構造・材質・用途）を理解する。★ ②ロープとの正しい使い方と保守を理解する。★ ③安全な結びと用途を理解する。★ 《①②③「図解カラー・ロープとひも結び百科（富田光紀監修・主婦の友社）」、第4章参照》 ④次のなわ結びが確実にできる。 ・よい結び ・てこ結び ・バックスプライス ・索端止め ・バタフライノット	①「安全な」とは、結ぶプロセス、結んだ結果、解くとき・・・の全てが含まれる。 ②使っている状態なのか、ダメなのかを判断することをここでは考え、判断できるようにする。 ③5-②と同様 ④③と同様だが、実際に野営の現場で使ってみること。

-2. 応用	①これまで取得した結策技能を活用して、班サイトのゲート、筏、軽架橋、信号塔【準章(2)-イ】を作成する。	①イメージとすれば、ジャンボリーの各隊のゲート。筏、軽架橋、信号塔は、準章の課目として制定されたモノであるので、こちらも行ってもらいたい。安全基準が満たされていればOK。完成度の高いモノは地区のラウンドテーブルやStep3で行う。
7. 食事・炊事 -1. 基本	①非常食（簡易食品を含む）5種を挙げ、それを調達し、その扱い方を確認する。また、保存方法を知る。【炊事章(10)改】 ※課題として実際に事前に購入し持参させても良い。ただし条件を明確にする。 ここでは「キャンプ（キャンプ地からの日帰りハイクを含む）」とする。 ※非常食（行動食）の内容は、下記②③の理解が必要である。 ②青少年期における発育成長に必要な栄養素の種類と量、これらを多量に含有する代表的食糧品を例示する。◆【炊事章(8)】 ③②をもとに、栄養のバランスを考えて、班キャンプ3日分の献立表を作り、次の事を計算して表にする。 ・栄養価計算表 ・必要な食糧材料表 ・食料品店で調べた単価による経費見積表 ・1人当たりの費用（分担金）。◆ ④環境に優しい炊事法、ゴミを出さない調理法を研究する。	①ここで言う非常食とは、荒天や遭難等の非常事態により通常の食糧の供給が困難になった時のために準備しておく保存性に優れた食料のこと。震災後は行動時だけでなく、日常生活用にペットボトル詰めの飲料水のほかに、乾パン・缶詰・レトルト食品・インスタント食品など災害時も想定したものを揃えるようになった。水道などの社会的な供給インフラの機能が停止することを想定し、常温で保存が利き、屋外でも特別な器具なしに飲食できる物である必要がある。しかしアウトドアの行動時では、自分で持ち運びをするという条件が加わる。最低でも一昼夜分は常に携帯する。 ②これは、特に長期キャンプの場合に必要な知識だ。極端に偏った食事をしない限り、通常の家庭での料理の延長で献立を考えればいい。しかしながら、指導者としては、栄養素のバランスと基本的な食品は知っておくべき。栄養素の他にもミネラル・ビタミンなども一通り知っておこう。 ③これは、参考となる料理参考書を見ながら作ってみる。そのための、基本的な計算の仕方を伝える。 ④これは、各自で考えてみよう。いろいろな視点から研究できる。
- 2. 焚火・燃料	①戸外であり合わせの材料を用いて、地面を掘らない方法で班キャンプ用の3種以上のかまどを作る。【炊事章(1)】 ②キャンプ地付近で、得られる樹木を用いて、3食分の薪を作り実際にそれで焚き火をする。 ③安全で効果的な「焚き付け材」を自作し提出する。 ★ ④ガソリン、灯油、ガスを使用するキャンピングストーブ及び薪による炊事における、自然保護及び地球環境保護（CO₂排出）の関係について理解している。◆【炊事章(3)】	①地面を掘らない・・・ということは、石、丸太等が直ぐに思い浮かぶが、あり合わせということは、U字溝やブロック、一斗缶、ペール缶なども視野に入る。行くなくとも1つは竹とヒモで作った立ちカマド類とする。 ②とにかくやってみよう。 ③一番簡単なのは、牛乳パックを細く切ったもの。おがくずの石油をしみこませたものなど、密閉容器に入れて運搬しなければならないものはできる限り避ける（蓋がはずれて染み出す危険）。 ④化石燃料とかバイオマスという括りで学術的に述べるのではなく、単純に如何に効率よく、かつ適正な量を短時間で、最小限の燃料で作るかを考える。それが結局は、自然保護に繋がる。

- 3. 調理	①次のキャンプ料理を作る。(1班＝4人分とする) ・食用野草を含む野菜料理：3種以上 (※山野草を採取上の注意事項の説明を含む。【TB-E2-4】) ・牛・ブタ・鶏などの肉料理：2種以上 ・塩干魚及び生魚の料理：3種以上 ・小麦粉を用いたダンパー、またはツイスト【炊事章(5)】 ②米をコッヘルで炊く場合の、米の新古、水加減、火力と炊飯時間の関係を研究し比較表を作成し提出する。◆ ③ Step1-7-3 ③について、腐敗のメカニズムを理解し、腐敗防止法を使った食料保存を3種以上検証する。	①山野草・・・は基本的に非常時用である。良く似たものに毒性があるものも多く、中途半端な知識で摂取してはならない。 ▶ 7-1-③にこれらを含めて考えさせる。 ②これについても、実際に行ってみる。 ③腐敗は食品の変性とも言えます。たんぱく質が変性したものを「腐敗」と呼び、炭水化物や脂質が変性した物を「変質」、炭水化物が変性したものを「発酵」という。こういう現象は、細菌・かび・酵母などの微生物が食品を分解するためにおこる。 ▶身近に出来る腐敗防止方法としては加熱殺菌がある。その他の腐敗防止方法は、紫外線・放射線照射、除菌、薬品(塩素系漂白剤)などによる殺菌などがある。 ▶腐敗防止法を使った食料保存とは、「冷蔵」「味噌漬け」「油漬け」「塩漬け」「乾燥」「燻製」など。
8. 安全・衛生 -1. 基本	① Step1-8-1-①を実践し理解をより深めると同時に、原隊のキャンプで実際に指導する。 ②スカウトの前の喫煙について、その問題点と影響を列挙し、その対策と必要措置を考える。 ③川などの自然水を使用するときの簡易濾過装置を図解し、作製する。また、滅菌ができる。◆【炊事章(6)】 ④キャンプにおける用便、ゴミ処理ならびに食料保管について、衛生上注意する点を知り、実際に1班が使用するのに十分な便所、ごみ穴を作る。【環境衛生章(6)】	①これについては、実際にキャンプで指導できるように、Step1-8-1-①を再度取り上げて、そのポイントを明確にし対処法を引き出す。 ②これについては、いわずもがな。ローバーリング・トゥ・サクセスを確認すること。 ③できれば、事前課題として作成してもらいたいが、ここでは図解し、ポイントを押さえるのみとする。 ④昔と違い、現代は既設の施設で対応することが原則となっている。それ以外のキャンプ場での対応として、一通りの知識を持っていもらう。コースでは実際に作成しなくてもいい。
-2. 点検	①隊キャンプを点検し、次の項目について評価表と点検報告書を作成する。【野営管理章(2)】 ・キャンプ地の選定(水質調査を含む) ・食糧と燃料の貯蔵 ・便所とゴミ捨ての衛生処理 ・炊事場の設計と工作 ・炊具、工具の手入れと整頓。 ・キャンプにおける安全と秩序保持 ・役割分担とチームワークの良否 ②朝の点検と夜の点検の重要性と心構えを説明し、実際におこなう。	①隊キャンプの点検目標は、Step1で示した通り ●キャンプ基準の維持 ●班制と進歩制の維持 ●規律とチームワークの維持 ●整理整頓と日々の改善 ●健康管理と衛生管理 ●災害防止と安全管理 である。それを更に具体化した項目が左記である。実際に点検を行うためには、点検実施者がそれぞれの基準、そしてベストな状態を知っていることが大切で、それ無くしては点検はできない。 ▶ここでは、そのベスト状態について確認し、採点についての共通認識を得る。そのため事前に5段階評価について、その評価基準を明確にしておく。 ②①に基づいて、相互点検をして、基準の確認と振り返り合わせをする。
-3. 安全な照明	①夜の野営地(サイト、テント内、各施設)における適切な灯かりの取り方を理解し実践により確認する。【野営章(8)】 ②左記 Step2-8-3-②について、灯火の特徴の比較表を作成し、取扱上の注意事項・特徴・手入れの方法が説明できる。	①作業、食事、会議、団らん、就寝等が夜間としては考えられるが、それぞれに必要な明るさと適した照明器具について、実際に配置して確認してみる。 ②は、実際に比較表を作成し、班相互で研究を行う。

-4. 事故の予防・対応	①キャンプ中に起きるかもしれない突発事故（例えば急病、火災、盗難、虫害、風水害など）の予防と起きた場合の運営体制と対応措置について説明できる。◆【野営管理章 (4)】 ②水辺または水泳プログラムを有するキャンプの安全管理について、特に注意する点を説明できる。【野営管理章 (6)】 ③指導者のキャンプにおける飲酒について、その問題点と影響を列挙し、その対策と必要措置を考える。 ④いかに医療機関もしくは消防署と連絡をとるか、その連絡手段の確保を考える。	①これについては、県連ホームページにある「危機管理マニュアル」を参考に、予防・対応措置について確認する。 ②下見ではなく下調べと、バディシステムの周知。そしてスカウトの健康所帯と保護者の同意。 ③どうして飲酒をするのか。飲酒の問題点と利点を列挙させ、指導者としての立場からの飲酒について検討する。その反面、保護者の立場、安全管理者の立場でも検討する。 ④スマートフォンの普及から、天気予報（11-①）等の情報は得やすくなったが、その反面消費電力の関係で待受時間が短くなっている。それをキャンプ中どう確保するかも今後考えておく必要がある。また、山岳地においては、どこまで通信エリアを確かめることも必要だ。
9. 救急法	①救急法については、指導者救急法研究会 Step1（上級）を修了する。 ②ターゲットバッジ B5（救護）を実際に行って検証する。	①隊長の基本技能として救急法（上級コース）を受講しその認定を受けていることがある。②はそのコースに含まれているので、ここでは改めて実行はしない。が、これまで救急法を受講したことが無い指導者については、セッション外として②の6細目を実際に実施する。
10. セレモニー・点検	①キャンプにおける儀式、儀礼、キャンプファイア、スカウトアウトの教育的意義について理解し、説明できる。◆【野営管理章 (7)】 ②キャンプ地において国旗の掲揚の準備をし、掲揚及び降納を適切に実践する。 ③朝礼、終礼についてその意義を理解し、実践する。◆	①と③については、ボーイスカウト隊リーダーハンドブック P.224 に掲載してあることを参考にしつつ、Step1 を発展させてください。ここでは、「教育的意義について理解する」ですから、その点についてよく考えさせるように。B-P最後のメッセージにあるように「健康」「情緒」「協調」「観察」「推理」「発見」「驚嘆」「感謝」「素直な心」「自発性」「自立心」「自律心」「創意工夫」「仲間」「友情」等を素晴らしい自然から得なさいと言っています。それに気づくこと、感じること、意識すること、そして育むことができるのが自然の中で過ごすスカウトのキャンプです。』このように自分自身のない面と向き合い、心の成長を意識させ、定着させる場がキャンプにおけるセレモニーでしょう。 ②実践してください。国旗ポールの位置は？ ③なぜ朝礼をするのか、なぜ終礼をするのか、朝礼と終礼の意味と意義、効果を考えで実際に行う。
11. その他の技能	①天気予報等の情報の収集を常に行い、キャンプへの影響を考え、その対策を実際に講じる。 ②雷に関する一般知識と避雷について具体的な説明と避雷行動が実践できる。【測候章 (2) 改】 ③獣類、昆虫、鳥類、魚類、雲の状態を観察して行う天候の予想法を3種以上知る（観天望気）。【測候章 (4)】 ④外出着（上着、ズボン、シャツ、ソックス）及び靴を20秒以内に脱ぎ、水中に飛び込むこと。【水泳章 (3)】 ⑤次のスカウト用具が消火に役立つ場合を説明し実演する。 ・ロープ ・オノまたはナタ ・グランドシート ・フライシート ・毛布 ・笛 ・ネッカチーフ ・スカウトハット ・布バケツ 【消防章 (6)】	①まず、必要かつ確実な天気予報の情報収集をさせてください。そこから、短時間（1～2時間後）・中時間（6～半日後）・長時間（翌日以降）の予想を立て、それぞれの時間での天気について顕彰してみる。 ②気圧配置と寒気を読み、雷雲の発生予想する。避雷については、今まで定説とされていたことの根拠が覆されている場合が多くあるので、確実な情報を入手して回避することが大切。 ③観天望気には科学的根拠に乏しいモノも多い。なので鵜呑みにせず①と併用して、総合して考える。 ④水泳着に着替えた後、外出着を着用し、水中に飛び込む前の所までを行う。ただ急いで脱ぐだけではないことを知る。 ⑤これについては、実演はしなくても良いが、それぞれのモノをどのように使うかをグループ内でのブレストで挙げていく。

12. 評価	①スカウトキャンプの点検評価に必要な項目を挙げ、評価表を作成し、実際に評価を行う（原隊でのキャンプでの実践報告でよい）◆（後日報告書提出）	①評価表作りとその評価の実践を、後日隊のキャンプで行い提出する。
13. その他	①研究会終了直前に、再度個人装備等の点検を行い、それぞれについて使用の有無、頻度、必要な数、装備の過不足等について各自でチェックする。 →使用頻度と必要性について再チェックし、「如何に持って行かないか」を考えさせる。	①実際に行いましょう。
14. 認定と検定	① 1. ～ 13. までのすべてのセッションを受講し実行するとともに、指定された研究レポート◆や、所定の報告書◆が提出され認定された段階で、Step2 の修了が認定がされる。 ※セッション毎の修了審査に合格することで、指定された研究レポートの提出に替えることができる。	

標準的個人装備一覧

2 泊キャンプ用

品 名		標準 数量	単位	必要度	持参 数量	使用 数量	規格・その他
基本装備	登録証	1	式	◎			
	制服・制帽	1	式	◎			
	携帯電話*	1	台	△			
	携帯電話充電器*	1	式	△			電灯線用、乾電池タイプの充電器
	健康保険証の写し	1	式	◎			ジップロック等の防水袋に入れておく
	筆記用具	1	式	◎			ノートと4色ボールペン等
食料	米	6	合	◎			1合ごとに小分け
	初日の昼食	1	式	◎			
	水筒	1	個	◎			1リットル程度
	非常食	1	式	◎			インスタントラーメンなど任意
衣類・靴	レインスーツ	1	式	◎			上下別のちゃんとした雨具を 100円カッパ不可
	作業帽	1	個	◎			基本的にキャップ
	作業着	2	式	◎			活動着（シャツ、ズボン）
	防寒着	1	式	◎			夏でも必携（薄手のフリース）、季節に応じて
	替下着	2	式	○			泊数+予備1
	替くつ下	3	足	○			1日1足か
	寝間着	1	式	◎			ジャージ・スウェット上下
	雨靴	1	足	◎			長靴
	行動靴	1	足	◎			トレッキングブーツ等
	野営靴	1	足	○			スニーカー等サイト内行動用
寝具	折りたたみ傘	1	本	◎			小型軽量のもの
	スリーピングバッグ	1	個	◎			季節に合わせて
	キャンプマット	1	個	◎			季節に合わせて
	まくら	1	個	△			スタッフバッグ等を利用
作業関係	スリーピングバッグカバー	1	個	△			季節に合わせて
	新聞紙	1	式	◎			1日分
	ナイフ	1	本	◎			隊で定めたもの
	マッチ・ライター	1	式	◎			防水対策をして
	うちわ	1	本	◎			必需品
	ロープ	1	本	◎			スカウト用6m
	細引き	1	本	△			3mが2本程度
	ライト	1	個	◎			できればLED ヘッドライトタイプ
	予備電池	1	式	△			上記用のもの
	軍手・革手袋	1	双	◎			できれば革手袋を
	コンパス	1	個	○			1度単位を目盛りがあるもの
食事関係	時計	1	個	◎			電池の消耗度を考えて。
	食器	1	式	◎			クッカー：フライパン1、蓋1、器2
	箸、スプーンセット	1	式	◎			箸とスプーンがあれば事足りる
	マイカップ	1	個	◎			
日用品	缶切り、栓抜き	1	式	◇			
	タオル	2	式	◎			浴用（汗ふき等多目的に使用）
	ハンカチ、バンダナ	2	枚	◎			1日1枚
	ティッシュ	2	個	◎			ポケットティッシュ
	安全ピン	数	個	○			大中小
	爪切り	1	個	○			
	洗面用具	1	式	◎			歯磨きセット、洗顔セット、お風呂セットなど
	個人用医薬品	1	式	◎			持薬、傷用他
	個人用スコップ	1	個	○			ケースに入れて（キジ撃ちできる場合）
	トイレトペーパー	1	個	◎			防水袋等の対策をして、トイレ、食器拭きなど
	折りたたみ椅子	1	個	◎			
	ホイッスル	1	個	○			
	ビニール袋	1-2	枚	◎			スーパーの袋可
	裁縫用具	1	式	○			
	雑巾・布巾	1	式	○			各1
	洗濯洗剤			×			
	洗濯ばさみ	2-3	個	△			
	虫除け、虫さされ薬	各1	個	◎			春～秋
	日焼け止め	1	個	○			晩春～早秋
	リップクリーム	1	個	○			
その他必要と思われるもの							